

# はじめて親となる夫婦への産後のメンタルヘルスの促進に向けたペアレンティングプログラムの開発とその効果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 裕子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003342">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003342</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第4号

はじめて親となる夫婦への産後のメンタルヘルスの促進に向けたペアレンティングプログラムの開発とその効果

(Development and effect of a parenting program for promoting postpartum mental health of first-time parents)

佐々木 裕子 (ささき ゆうこ)

博士 (看護学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、ペアレンティング教育の今日的課題解決に向けて、わが国でははじめて、親となる夫婦へのペアレンティングプログラム「赤ちゃんの寝かしつけ準備講座」Web教材を開発し、妊娠中からの介入が産後のメンタルヘルスに及ぼす効果を明らかにした意義ある論文である。

開発は、IDのADDIEモデル(分析、設計、開発、実施、評価)に準じており、学習展開はICEモデルに基づき、基礎知識・関連性・応用が有機的に作用するよう設計されている。教育内容は、①赤ちゃんは夜なげまとめて寝てくれないの?②赤ちゃんはなぜ泣き止まないの?③赤ちゃんの睡眠、なぜ昼夜逆転するの?④赤ちゃんの夜型化と生活リズム、⑤赤ちゃんがぐっすり眠るための寝かしつけ、⑥赤ちゃんが寝ない、泣き止まないときこそ大事な“夫婦のコミュニケーション”の全6セッションからなる。これらは、オーストラリアの産後早期の母親父親を対象とした心理教育的介入プログラムを参考に、日本のSNSを利用している母親の生の声を拾い上げた基礎調査の結果を反映した点に独創性がある。介入効果の評価ツールには、STAI Form-Yの状態不安、特性不安、EPDSエジンバラ産後うつ病評価尺度、夫婦関係尺度 Marital Love Scale等を用いて、介入群(母親34名、父親22名)と対照群(母親33名、父親28名)について介入前後の比較検討を行った。

介入群では両親の児の睡眠や泣きに関する知識・育児スキル、介入前の状態不安が高かった母親の産後の夫婦関係、EPDS・特性不安の高かった母親の産後のコミュニケーションのアサーティブ度が有意に高いことが示され、介入前のEPDS高値の母親では産後EPDSの上昇も抑えられたことが明らかにされた。これらの成果の背景には、介入した当事者である研究者の専門的知識と教育的態度によるところが大きいと考えられる。今後は、介入者の幅を拡げることにより社会的貢献が期待できることから、本論文の学術的価値が高いと判断する。よって、本論文は博士(看護学)の学位を授与するに値するものと判定した。